

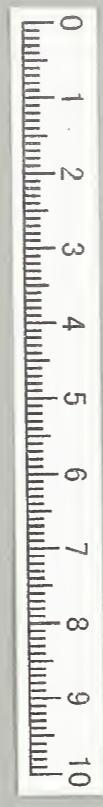
北槎聞略

卷四

一〇枚 二軸 一冊	二架	一八三〇 一七八 函號	和書門類
-----------------	----	-------------------	------

一八五 函一 一架	一〇枚 二軸 三冊	一八三〇 一號	內閣文庫 和書類
-----------------	-----------------	------------	-------------

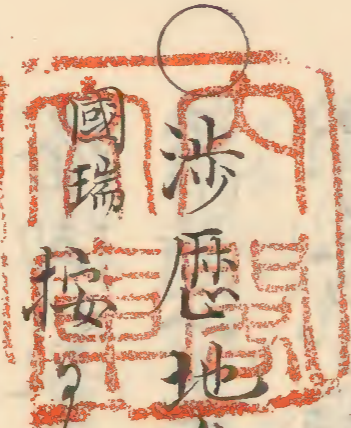
內閣文庫	
番號	和 18301
冊數	24 (4)
函號	185 579





北槎聞略卷之四

淺草文庫



涉歴地名風土人物

國瑞 おらんど 按 おらんど 和蘭の丘ブ子ル わらわ 者 わらわ と わらわ の
 セラガラヒル云魯西亞一名莫斯科未
 亜いふ サカ 沙 ル 馬 モ 西 シ 亜 ヤ と い ひ り 國
 かり千餘年のじり ラン 翁加里亞國
 の人ロニスといつる者始りて此國を併



北

きと王たりしより其祖王の名を
 以て其國ふ名つけ魯西亞とい稱せ
 たり又其都城をムスクワとい
 りたり莫斯哥未亞とい稱せと乾
 隆御製集池北偶談等ふ載る俄
 羅斯一名羅義といふもの即是也魯
 字舌を轉して呼ぶなる阿字をまじ
 へりて例ゆふなりと

皇朝少と名シマと稱し支那と亦
 俄字を冠せたりがら金と畢竟
 絶域殊譯輾轉しと字を用ふ
 かれ音韻しと彷彿の例あり
 のみ譯字魯西亞羅義といと切近
 かりしと其て國ハ歐羅巴洲東
 北境の大國少と西ハ波羅泥亞雪際
 亞小壤に接し南ハ小韃靼黑海北

高海小際一東ハ西細亞の大韃靼
接一北ハ氷海小至ハ東西徑一八百
餘里南北五百六十餘里は里數ハ此ハ
の里法ナリ氣候極
ク寒ク土地多クハ曠原茂林ハ多
諸穀ハ産ムルハ絶少ナリ生草
ハ少ク人ハ少ク野陋強暴小ハ專
勇ヲ好ムハのメアリ道理ハ弁多ハ
者ハ少ナリ一ハ百餘年前ハ國王

パトルアレキセネチトハ一ハ人徳絶
盛ハ智絶高ク神武英雄絶倫ハ
廣ク土地ハ併セ多ク河道ハ開ク
は多ク通一ハ大ハ交易の利ハ地
其國ハ富一ハ又諸國ト一ハ有名ハ
師儒ハ一ハ久ク知ハ小ハ學校ハ設ク國
人ハ教導一ハ算數書法ト一ハ百工
技藝ハ末ハ小ハ一ハ各良工巧匠ハ

史第一の大國とす。一也。亞細亞小
属との地をい總稱とす。シビリと云
又魯西亞鞋靴と海と其内容の
処の諸心気候の寒暄人物風俗の
善悪ルヤ一様ナトと其より漂人
等より親く經歷と其処のよのをた
小集

○アミシマツカ 光大夫等始と漂着時

一 地ナリ東西六七里南北二川一里許
わささふ小島也地氣甚寒く四月末
以テ一も雪あり十月以テ一寒海みな
氷凝り男子ハ被髪女子ハ髪を三川より
小辮と後小垂ハ男女とも小跣足ナリ
手足不程々の紋様を刺青一女子ハ面
小ハ蔓草花紋を刺一下唇の両傍と
鼻孔小鯨牙魚骨の類を櫛と飾とす

其ヤシより二分計ゆく長さ二三寸なり
鼻孔のこの細く西又小削りなり少く
上の方小勾まきく鼻隅を穿くた右小
せと唇のこの浮漚丁の状くこく小造
り唇の内の方より挿く頭とこなる
生れと四五歳のこ海小兩親小刀をりらと
孔を穿け刺青は十五六歳のこらおのく
りの好ぶやせと紋極を刺しりる男

子おりかへ入せむとる者なり衣服は鳥
獣の皮を縫ひ袋のこく小縫い筒袖
小くく領の小顔とせとちかやこけ
裾より入り入くきりなり長さハ膝を
るれ襦りり男女とも異なりなり
夏の毛を外め冬ハ毛を内めとせ
木めと造り形ハ木の葉のこくこ
尖く後圓く後入こ小穴のこる襦ふ

孔^{あな}の^{あな}額^{いん}ま^まは^はか^かは^はり^りと
ト^とり^り文^{ぶん}字^じが^がし^し曆^{れき}日^じを^を知^ちら^らず^ずと^と教^ま法^{ぽう}が^が此^{こゝ}
人^{ひと}倫^{りん}の^の道^{みち}を^を弁^わべ^べら^らず^ずと^と血^{けつ}脈^{まく}
の^の法^{ぽう}を^を知^ちら^らず^ずと^と婦^ふ人^{にん}月^{げつ}事^じ
の^の間^まに^に衣^い服^{ふく}を^をか^かし^し別^{べつ}を^をふ^ふら^らず^ずと^と性^{せい}質^{しつ}愚^ぐ直^{ちつ}
め^めと^とま^まし^しら^らず^ずと^と善^{ぜん}良^{りやう}が^がり^りと^と此^{こゝ}居^{まゐ}
不^ふ土^ち穴^{けつ}を^を深^{ふか}く^く八^は九^く尺^{せき}を^を掘^ほり^り上^{かみ}に^に草^{くさ}を^を
か^かき^き其^{その}上^{かみ}に^に土^{つち}を^を覆^{おほ}ひ^ひ入^い口^{くちう}に^に圓^ま木^{ぼく}を^を刻^きて^て

つ^つけ^けら^られ^れど^ども^もお^おき^き足^{あし}か^かり^りと^と弁^わべ^べら^らず^ずと^と
出^い入^にも^も下^{くだ}る^る草^{くさ}を^をか^かり^り風^{かぜ}雨^{あめ}の^の時^{とき}に^に
入^い口^{くちう}の^の風^{かぜ}上^{かみ}に^に板^{いた}を^をま^まし^しと^と雨^{あめ}を^をか^かせ^せく^くり^りと^と
食^{しょく}物^{ぶつ}は^はス^スタ^タチ^チキ^キイ^イの^の類^{るい}タ^タラ^ラス^スカ^カガ^ガリ^リと^と
小^{せう}魚^{ぎよ}を^を草^{くさ}小^{せう}衆^{しゆ}み^み潮^{うしほ}を^を蘇^{いそ}へ^へ石^{いし}を^を曲^ま
突^つき^きを^を築^{つく}青^{あお}い^いの^のつ^つも^もく^く板^{いた}の^のつ^つも^もく^くり^り
魚^{ぎよ}を^を置^おき^き其^{その}下^{した}に^に件^{けん}の^の魚^{ぎよ}を^をの^のせ^せ下^{くだ}
ト^とり^り火^ひを^を焚^{たき}か^かし^し潮^{うしほ}を^を灌^{かん}ぎ^ぎら^らず^ずと^と蒸^む

焼かして食ふ又其石板の周ふ土を縁
かきとるすう鍋ふく月小青名い土地の産
めく質しりり堅く磨くと庵丁鎗の
類又海蛤をすの逆鬚鎗ふ化ぶ此石蝦夷
地中産
と云ふ言アゲトし磨く毛ハ削らるるなり大明一統志
女直の土產ふる石磨黒龍江出名水花石堅利入鐵可鏗
矢鏝とらふもの即 闘争の時ハ毛鎗を由ゆ
はよのかり魚
是をシテリカとらふ扱又汁ハサラナ
黒百合とらふ草の根を水ぬ煮搗爛

水ぬとゆり免白酒の如くふく木の鉢ふ
盛木の七ふととらふいと啜ふ又ここと
ふ草の根を垢皮を剥ぬぬと煮搗
碎き汁とふく此草松のあくと
シマクとらふ サラナハ
上饌ととらふ常ふ用わくどとらふ冬
ハ寒海浴水ととらふ魚攪がらぐさか
夏のうりふ魚類鳥雁のたぐいを多く
とらふと乾し貯しおき潮ぬと煮食ふ雁

鳧の春の末小南の方より鳴り来りて
夏のうらみの山間の岩間小多く卵をうむ
これ女子のつづふ日こそうらむおはれあ
抵へてと百餘宛りて半なり雁鳧の
羽毛を替へたり花津能いよるる石の
鎗あつて子或は棒あつてうら落と魚の
魚の骨を釣ふ造り魚皮を餅とら
と釣ふ女へのうらふ影とく釣得

お半なり又マゴテといふ草多し塊ふ
塌と生し麥門冬の如き黒き実を結
りてと食料とす味は甘く酸し食
べ唇舌黒く深ふなり飲物海邊の
石よふ生る草の葉を煎り葉の如
くふれ伊葉の状は虎耳草小似と色
深緑なり乾貯おふ数年たつれとも色変
りて雷り草の魚をいれ汁あつて煮ふ也

ほ地山野より小草叢のみふと箸や
木をもとせむとふされしは漂木の流れあり
夥しく年中の薪家他器具等も
皆漂木ありと舟の河よりしりし
海獲海豹海驢の屬松と夥しく
皮船小舟りシテリーカありつきとわ皮
やしき貯くおまきと祖税おし
貨物とりと本國の商人チガ
テミドフ

等より下の者五年毎の交替あり
海より来り烟草木綿牛馬の皮
交易と牛馬の革は皮船小造
皮船の制は長二間計物三尺餘骨
木ありと組立の上小牛馬或は海驢の皮
を体小縫くきせ正中小圓く孔あり
けに内小乗腰より上をせし
なる為小孔のせしり中巻

如く皮のくはりか仕掛揃ふといま
あむおびりりか物とくハ小刀の外
斧鋸の類いたつたき津りハ標木
かさうのつ免鎗も造る石か小刀のて
ろくさうり込漸く細く破と小刀
めと削り立障子の組子のゆと小組
鯨の節めと結るなり皮を縫合る
めと糸と鍼いりれハ鳥の脛骨を石

うと打つと自然小鍼のくハ尖り
を摺みゆめのいふ刻をつけ糸を弦い
つけと絶ふ糸ハ魚或ハ海苔の節と裂
と刃のりりり小刀ハ小児とも人こ
ハと揃ふ佩ハ半蝦夷人のマキリを
目りとも何れハ細くとも皆ハ小刀の
めと仕立るなりりりり小刀ハ魚目西
らと交易の品なりハ我の酒長をトヨノ

とつし其書をとヨノシカとつよ本國より衣
服をりり程々紙小白き綴子の表をつけ
金の縁をとりつるパルカ服の糸小紅革の襪
紅き帽子小金糸の纓をつけ金ふと縁を
とりつるを戴くわり光大夫在島のうり
テシリとつる魯西亜人十八軍ふかりつる
島人四人とちのく皮船小のり海獲を授ふ
向いかり島小海らんとつるせり島人

船をとせ鼻烟をとる并おりとつり
テシリとつるをり船を渡り溺またりよ
あを四方とつる石の澹りかき殺ふ
あつりり先ハテシリとつる鴻人の書小奸通
せし半顯く殺ふとつり
しり突いの以前島人つるニビテモワ
し根を念むるわりと密小殺害を
し謀りふれの半とつるえ謀の者

四人を鳥銃めくたす。うらみお路一
半のうらみお路めくたす。仇を報せし
かりとせ。元来ニビゲモフ。五鳩のうら
トヨノ娘オニシシといつてをよむひく
女あり。みろりの四人の者を殺害せしむ
憶密を父親の方ふりせしむ。半とせしむ
んとて。テエハノカチモフといつて。二人の者を
かむ。密を殺せしむ。其時光大ま。オニシシと

根場いよ。あまきとく。臥居より。夜の半
ふり。以之の者。思ひあり。オニシシ。床
おのり。光大ま。目さ。えは。見景をえ
何事。おん。と。伴。睡。く。密。ひ。な。る。ふ
五人。や。と。娘。の。う。ら。み。お。路。め。く。た。す。う。ら
い。園。を。掘。り。入。に。後。を。は。し。た。り。な。る
只。一。層。う。ら。み。お。路。の。み。ろ。り。と。言。ふ。な
や。め。り。と。せ。し。む。の。う。ら。み。お。路。め。く。た。す。

光太夫の肉慄と目も念に被りて
息をつらとせりふ味近くなりと
小市入来と厨を床より引取り毒
方お持切り後おまけ二人の者お
ましお望みする身のくわゆるん
とせひりうけしきと密にお骨を
山陰お宿い付埋み隠と中入り
生中ニビチモフ帰小のうへ毒顯わらひ

ニビチモフステパゾカダコフ三人ヲホツカめて
獄におりれ光太夫等り帰星のこゝろを
り中獄中お伺りしぬアミシマツカめと
救命の恩を蒙りし者なり光太夫
小市儀吉三人よりイルコツカの有司を
赦免の願状をせしり

按よりふアミシマツカ諸地図に載せり
此地よりカムシマツカへの方位海路

の里程リテイを考カウるふアレウチスキ諸鳩チウコウ中
の一鳩イチコウなりアレウチスキ諸鳩チウコウ即ち
セラガラセラガラにふ所謂ソウゴウアルクニト鳩コウめと亞
細亞ジマ亞墨利加アマメリカ二大洲の河カハの河カハなりと北
亞墨利加アマメリカの近岸キンガンなりと星散セイサン路ロなり但
は地極チキョクなりと小島コウジマなりと其左ミダリを著アツク
すふおびりぬヌ一蝦夷セマの東北トウホク六七百
里リの程ハジメなりと北極キョク南ミナミ二三度の地チ

又セラガラセラガラにふツクニツキニツキの人ヒト幼コウなり
頤イの鬣ハゲと鯨齒クジラの歯を樹ツにツをツい
明人の圖説メイジノツに北亞墨利加キタアマメリカの人ヒト大仇ダイコウ
を獲ウケて其骨カネを長ナガ二寸ニサウ計ハカふハカと
頤イの鬣ハゲと孔アナを骨カネを裁キえ一寸
計ハカふハカと其功コウを表ヒラ
しむ半ハジメを載ノセしシツクニツキニツキハ魯西ロシ
亞語アゴなりと五イラキチキチとふフニビリニビリ東ヒガシの

の盡頭ゆく北亞墨利加の僅小一
海峡を隔てたれ其風俗似たり
半とんえり今度漂人を送
事り船司ワシイロヲフの義
子アキセイカリ者北亞墨利加
存め下唇孔のしとたり
と川と考ふ亞墨利加所屬の
地なり疑り坤輿四大部洲

ふ〜〜亞墨利加亞細亞歐羅巴
三大洲を涉歴古來い
皇朝小通路あり異國の船を送
還され半實小海平日久
治化覃被遠邦
國家の神威を仰慕其を
護送互市來款を求めたり
むり特小一時の盛事小して

千古未嘗有の一大奇事といは
さふ金りし也

○カムシマツカ フホツカとアナチルスカマの
間ちひふささー七しちの大地りり氣候極りてき
く積雪せき深ひく丈餘あやうよふ及およぶ九月の比より
雪ゆきりり四五月比ひにても降ふおるりりり六
月暑中しゅちゆうとととも此方の三四月比の
氣候きこうりり一折いちせつ雨あめがく風かぜもさめみはよ

かへ霜霧しもきりハむく深ひく常とこふ地震ちきん
多おほく土地ち大半たはんみわふふと多おほく多おほく
海河かいがに肉魚にくぎょ蝦えびの屬がもさ盛さかりり土人
打魚うりぎょ狩獵しゆりやうを主しゆとし絶とつく耕農かうりゆうの
業わざをりりり魚鳥ぎょちゆう獸肉じゆうにくと食料じきりょうも充あつ
おる夏なつの内うちも多おほくさうと乾かく野のへ
冬の儲たくわりりも土人をカムシマタリといふ
男女おとめも新皮あらわいを衣ころもりり多おほくハレン

麻アサの部部は洋洋の部部より大大なり新新の部部の皮皮をとりりい毛毛をゆふし
肉肉骨骨の方方と橙橙の木木の皮皮は煎煎して灰灰汁汁を
和和してううろろああく赭赭色色ふふせせらら裁裁縫縫の感感の
如如く小小縫縫と襪襪りりアミシマツカアミシマツカの服服ととおれ
領領袖袖口口と裾裾小小海海権権の皮皮と縁縁ららと先
とパルカととううろろああくく男男女女とも小小これこれを着着
今今ハ大大半半魯魯西西亞亞の服服ととりりゆゆれれる北北方
小小おおおおりりいいとと金金ととパルカパルカを着着る男男子子ハ

辮辮髪髪めめと女子女子ハ髻髻髪髪ははりりのうのうと
単単袷袷ののととききここののめめとと農農じじ多多くく穴穴居居
りりチチギギリリイイチチががの街街道道ハハ六六七七里里毎毎
小小驛驛亭亭ののりりとと夏夏ハハ舟舟ををつつぎぎくく冬冬ハハ襪襪
ををいいくく大大馬馬でで宿宿りり皆皆本本國國より建建
おおく驛驛站站りり此此地地ハハ郡郡官官のの下下多多く
本本國國より在在物物の者者住住居居るる人人等等の風風
俗俗ハハ近近くく本本國國の換換極極小小化化ハハみみふふる

穴居を改く屋室と造り者多し其

按りかぜラカラるゝ地は往古

皇朝より奥蝦夷と稱し地也

り蒙古より衆を獲て黒龍江

邊より人を移せし其地勢

の方々大濶し接し東西兩邊は海

際し南の方々漸く殺し其南

方末鏡の北北極五十三度三分北の方

平餘度小なり土人の面色赤黒く面

濶く鼻高く眼深く眉うせし居

る土人の四五尺小兒と四場小柱を

とて屋根の草をいと疾しよ小四角

窓を穿ち烟筒亮窓出入り小扉

なり千六百八十九年元禄十一年小始て

小服屬を令り今國より小城五座を

築きし其官長を置賦税をす

つ先近傍の鴻カキヶヶ々カキりカキ教道カキ寺カキ梅カキ諭カキ
專カキ其地カキの利カキ月カキを起カキ一カキ本國カキ小
伏カキ後カキ路カキ一カキしカキりカキ事カキをカキ知カキりカキとカキ也カキ

○チキリ カムシマツカの小岸おのり一
百四五十計の小邑なり其内一系ハアクラシツ
コイめ属と郡官ニ入チキリの郡官ハクラ
ポンシキアクラシの郡官ハカビ丹ガ
按カキふカキゼカキラカキガカキラカキトカキふカキ云カキテカキギカキルカキをカキカム

○シマツカ五城の一と近來達より之
テキルとつる河岸おのり故其地お
名つけりチキリテキル一音の
轉り一北極出地五十七度許の地と
○ヲホツカ 此地ハ東南諸方海船輻湊の
埠頭おのり頗る繁盛の地なり又此お小
船カキ近カキ多カキ一カキ先カキ太カキ又カキ等カキをカキ護カキ送カキのカキ船カキとカキ此
地カキとカキ造カキりカキ帰カキ國カキのカキ節カキもカキ去カキ處カキよりカキ開カキ

洋路——と云

梅ふぶせうがうらふムラコツコイハ其地

極りくと廣く其府城北極五十九度

の地ふつりカムニマツカカニ地東南の

諸島へつり船ハ皆是処より開帆する

なり其船も皆是地の船匠の造る

処なりと云

○マコツカニ河沿岸の地なり氣候極

りて寒く冬の間の行路の者嚴寒を侵

され肌肉皆凍り動さず耳鼻をむし

指を凍し是は喉を故ふ身ハ表を厚

かよ皮の帽もや箸ムフタとも表ハ熊の皮

靴ハ靴の手皮りと筒の毛も縫たは

行りけの毛も袖ハ両頭より手をさし入

これに面ふつり鼻より下をわたり口を

眼よりとせつりつりつりつりつりつり

頼りなきがし、副とさうする如く、
一、途中あし、
おひる方のこのあとの、
わらざれども室内へ入温暖あつた
痛み心氷のころ、
心と爛き為おが、
丁子肉桂の末を加つて塗き、
一、きき、
痛み心氷のころ、
心と爛き為おが、
丁子肉桂の末を加つて塗き、
一、きき、

骨を露とび大鋸で切断し、
ほご足を造り杖をつき、
ほご足つき手の法アムロシウス
又ヘイストルリ云垂書おんえさう
地りりぬ六月、
餘光常お地年、
のりきか、
と夜中明き、
らぶよの、

ガリヤ—モ地より秋海まで二千四五百里の
す—と其海濱ありズバといふ獣の牙を
拾ひ得る半あり 海象牙 其内よりす
一角あり得りといふ本國より建置あり
都會ハ人家五六百大半平屋造りありて
それハ二階造りあり塔木ありて其
地ハ夷人ハマコトといふラホツカより
イルコツカの間ハ散居して男女ハズンハ
雜居して

髪黒く眼睛りし黒—牛馬の皮を衣
少りて身も膚も長く僅ハ腰
より家人ハ呼吸器を用はるあり肌
より貴賤よりハ布の汗衫を著く其
家の甚低くを根ハ脊より平ハ造り
四壁ハ牛の糞より塗りし内ハ坊土側を
臥し処のハ高く床を造り其内高く富
の者多し—牛羊馬あり—牛餘頭を糧

難きあふ牛糞を以て泥土の代り
堅く塗りし印を造るトングブラツケ
并小夷俗の稱の印をりりゆりゆり
下西洋なり
酋長やキニマージイといふ緋紅縁の襦
袴よりお國のクラポニキ小相當よりなり
又別お今國より置るの總管より先
に在る漂民を送り來りてアダム
兄弟とグスタウキリロウチラクスと

よかないオエシノホロチクナリ又此夷人
うりふシヤミンといふもの
道士の如きものあと常の人かり
一神人の如く不けふ啼呼喚
笑いのゝあがりかじりすり本
ともふ魚き法を行ふシヤミンの熊
馬の皮を全剥き生かす
より繕ひ大木の梢を走ら

梅おきたるを光太夫等も見らるるがなり

梅ふふゼラガラヒふ云マクツコイハ極

出地六十一度の地なり土人をマクテ云

レ十河の西岸ふすむ性とのり勇悍

なり獣肉おとし蒜の類を常食とす

ゆめとる鼠びくも狐と狼と貂

鼠を捕りりとも交易の貨物也

なりとマクチマコトマクテン管一語の

轉をーなり

○イルコツカ 北地は積南方ふよりと支

那の坡小近く氣候ルサの今恒寒なり

雪九月末より降生し一月計かたむけ

積りなり一國列ハ王子ラレホニチクあり

マコツカ等の酋長ふけがきハ格別の高官

なり土地のりも繁盛ありて真家富乃

者多く一百万高賈備りたりはとのれ

人家凡三千餘多しく板屋ありて長
生屋あり皆二階造りたり寺院七座學
校病院寺あり市廓四方一丁半の一
丁半計小廓小構皆長生屋も瓦兵
銅あり合三方あり官より守把の者
あり附あり商賈等の居住別処ありて
毎朝はあふ多りりれくの廓を閉す
終日買賣をせり黃昏小廓を鎖すと

市店小帰た在貨物の廓お置つけめり
たり官より番卒を附たり半日
絶く盜賊等の患が故に他邦の高
客等の金銀衣服をせり皆此廓お持来り
おとたり近こ海又りの左右小新廓
多く出来たりと在ま地より支那
北京の僅小十日路程あり清商及び韓人
かり常小此地の交易小多り貨物

茶料 胭脂 官粉 茶 冰糖 木綿 綿布 木梳
等なり 茶と紅粉は本國のもの多く支那
のものを用ひたり也 府城より百里許東に
バイカルといふ大湖あり 南北千里許東西に
廣さる不同なり ありとも狭き所あり 六
七十里なり 冬は氷に一面に氷なり 氷上は
橋あり 渡りし車馬あり 通じし湖の向ひ
小キイチカといふ温泉あり 光太夫は是痛

ゆふは温泉あり 浴せしと云ふイルコツカより
五百七十餘里 温泉の邊に客店五あり 何
せり 大家あり 客房あり 十四五房と
建はる 福あり 温泉の邊の谷間より 七
客店の崖のほとり 浴せしと云ふ
槽より 下計の糸小廊をうけし 浴
槽は三川あり 第一に官人 第二に平人 第
三に婦人の浴せし 又其処より 二三

里山奥小塩をどせと処有り崖の石間
より雪の積りしりしるふ吹せと此
所小官より看守人か所おきその物宛
皮布のつるイルツカノ城下おせと
清と一節重さ四百文なり此邊ハ
海小遠き地近隣の徳國留め塩を
日りの元ハ百文の價銅錢一又五分半也
監官ハカピタンナリ又此湖邊の寺ハニコ

ライとつる神僧の遺骸有り例年四
月の初小法會ありと遺骸を拜路
しし遷化より七百年計われと渾身
朽と面貌か存生るるも有りを本
國より甚崇敬し遠くは地おまき
く流拜しるもの常ハおるると也
よ

梅のふせラガラちお云ニビリ三州の内

此の地は川にりる廣大なり府城の西
北極五十二度強の地なり千六百四十
四年正保元年より始りて今岡も服属とて國
の商賈等多く此の地より支那
へ貨物を交易とす他邦の
貨物は此の地より格別小價賤し
凡の土地

○ウヂンスコイ イルコツカの家ありて人家

二百計の地ありてイワンペイトロチ子よりマコト
ブラツケの租税を治めりて之を収め
税の皆熊貂兔等の皮なりて之を
二張を以て又は地小銅山を以て銅
錢を濤は其地を二部に分ち上をウヂ
ウヂンスコイと下をニチノウヂンスコイと
す

○キシ子スコイ 人家百四十計は地小茶

石草木多しキリロハ常しくまふ採
茶チ小コ切キしシのノ草クサ麴コをを以もてて多たく
酒サケをを造つくりし也なり

梅ウメのノ小コゼゼララガガララヒヒめめ云云千チ七シ百ヒャク二ニ十ジュウ六ロク年ネン
享保十シウヘイジュウふふ始はじめくく本ほん國こく小こ伏ふく後ごとと此こゝ地ち
一イチ年ネンのノビビイイルル酒サケのノ名な草くさ麴コ麥マク甚しん上じやう品ひんなりなり又また
焼やき酒サケをを也なりとと枯こ魚ぎよをを以もてて常じやう食じきとと

○カラスノマルニキ 人家七八百餘有ハベシ

カゼウワリ

梅ウメのノ小コゼゼララガガララヒヒめめ云云此こゝ地ち牛ウシ羊ヒツ馬ウマをを
養やしやふふここれれをを以もてて食じき料りやうとと交かう易ぎとと
土つち肥ひ沃わくりりれれどどもも土つち人ひと農のう耕かうをを事こととと
せせららべべ

○トボルスキ イルコツカイルコツカのノ西せい千せん五ご百ひゃく里りありあり
府ふ城じやうとと市いち廓くわく寺ぢ院いんハハ山さん上じやうふふ何なにれれ平へい人にん
の家いへハハ山さん下げふふ何なにれれ昔むかしハハ此こゝ地ち小こ防ぼう寇こ軍ぐんをを

わの免く通川の商賈を護送路し
通國寧静めく盜賊のありはるき
な今いさりのるんみくうとせ

按りふぜラガラヒふま地マの府城フは

北極五十八度十二分の地マあり一千五百

五十年天文十二年小始マと建マりり支マ

那印度は通商の巨賈等此マふ

今集マ一 數百人堂マを結マと生マ来

此の地は常ふは地小輻湊一政奇
の貨物河川マありさるこのが土
地はり川も殷富なりと故ふ
土人の産業から勉マりたれと衣食
ふ急マしきまマりマとふ

○方テリンボルグは地より百五十里許マふ

銅山あり彼邦第一の銅山なりは地ふ

錢廠マありと錢を鑄マる月マふ馬マふ駝マせ

とく本國の輸と又ムラミとといふ石を産と
白簡ふ〜〜紅緑或ハ黒斑文あり〜は石
を以て屋室に造ると諸岳用ハ製と大
石の類紅斑のものをめり〜は貴重なり
とて錢を鑄ハ鼓鞞石を磨く岳等
皆水車をりり申志宏大なり〜のあり
最人かど〜はき功を成と〜ハ人かハ十
倍り〜造工の者車一座ハ二十人なり〜

按りふゼラガラヒ云云千七百二十三年

正徳八年 小ペートル帝始と〜は地ハ府城を

建川千七百三十六年 元文元年 女帝カ

テリナペトロウナの時ハ至り〜と落成

〜と〜は地ハ必つ〜なり又

〜ハ不鐵山あり〜邦第一の鑛と

淘戸ハ多く集り〜川〜も繁

盛の地りり〜と也

○カガニ 人家二千四百市街の光景頗
ペトルボルグの似より街道の両傍に二十
間湯小燈籠と川此境より織七と
白布 狂細小しとわはも上品なり汗
衿造れお皆此境のものともゆかり
又メーラ 石鱈干造り せとせと極りと 珍品
りりとは

接ふせラガラらふ云は此境の貨物ハ皆

勿児瓦河より黒海に運送しと都
尔格と大交易なりと 鞆靴の人と
多くは境ふまゝなるなり

○ニヂノゴロド 官人の致仕したるもの
多くは境ふ退隱しと川と富貴の遊
人多しなる人入邸ハ坂の上ふ建りしぬ
坂のふ川を隅と商賈の家形を
かへ戸口四千計 戯場博場おどり

の今^{イマ}も^{イマ}等^{トウ}何^{ナニ}と^トし^シら^ラふ^フい^イぬ^ヌま^マこ^コの^ノま^マり^リ
而^シが^リ

梅^{ウメ}ふ^フゼ^ゼラ^ラガ^ガラ^ラヒ^ヒユ^ユキ^キヒ^ヒリ^リト^トワ^ワシ^シト
そ^ソつ^ツる^ル人^{ヒト}諾^{ダク}勿^ム瓦^ワ的^{テキ}重^{オモシ}ト^トり^リ人^{ヒト}家^カを^ヲな^ナら^ラ
移^{ウツリ}を^シ一^{イツ}ふ^フ川^{カハ}と^トニ^ニテ^テノ^ノウ^ウゴ^ゴロ^ロド^ドと
名^ナづ^ヅけ^ケ一^{イツ}が^ガり^リニ^ニテ^テハ^ハ下^カと^トり^リの^ノ家^カ我^ガ
ガ^ガリ^リス^スル^ルと^ト初^{ハジメ}成^{ナリ}り^リ寺^{テラ}ニ^ニテ^テハ^ハ八^{ハチ}処^{トコロ}何^{ナニ}
入^{イレ}ル^ル馬^{ウマ}泥^{ドロ}亞^ア和^ワ蘭^{ラン}鞆^{タン}鞆^{タン}等^{トウ}の^ノ高^{タカ}容^{ヨウ}常^{ジョウ}

ゆ^ユほ^ホ地^チふ^フま^マり^リと^ト集^{アツ}ル^ル入^{イレ}ル^ル馬^{ウマ}泥^{ドロ}亞^ア和^ワ蘭^{ラン}
寺^{テラ}の^ノ人^{ヒト}か^カの^ノ其^{ソノ}國^{クニ}を^ヲ奉^{ホウ}崇^{ソウ}す^ス
教^{キョウ}法^{ポフ}の^ノ寺^{テラ}を^ヲ建^{タテ}た^タく^クと^トり^リ

○モ^モス^スク^クワ^ワ 又^{マタ}ム^ムス^スク^クワ^ワと^ト稱^{ナヅケ}を^シ古^コト^トり^リ
魯^ロ西^シ亞^ア王^{オウ}の^ノ都^ト城^{シヤウ}を^ヲ建^{タテ}置^ケ一^{イツ}地^チを^ヲめ^メり^リ
こ^コろ^ロ宏^{コウ}廉^{レン}繁^{ハン}華^カの^ノ地^チを^ヲ近^{チカ}世^セペ^ペトル^{トル}ボ^ボル
ク^クふ^フ新^{シン}小^{コウ}都^ト城^{シヤウ}を^ヲ建^{タテ}と^トり^リ一^{イツ}國^{クニ}を^ヲ兩^{リウ}都^ト
小^{コウ}五^ゴ年^{ネン}は^ハく^ク住^ジ居^グの^ノ一^{イツ}一^{イツ}光^{コウ}太^{タイ}丈^{ジョウ}が^ガ行^{ユク}り^リ

以ハペートルボルグハ住居ありトモスクワハ留^亭
守^守ノ裁^裁處^處なりト此^此ノ廣^廣丁^丁方^方三^三里^里計^計邦^邦
ノ里^里本^本城^城ノ前^前ハ大^大石^石橋^橋あり長^長丁^丁四^四拾^拾間^間餘^餘
廣^廣丁^丁六^六七^七間^間ナ有^有石^石ノ欄^欄干^干ヲ施^施一^一種^種
ノ花^花紋^紋ヲ彫^彫せりトリ^リ川^川トモ精^精工^工ヲキ
いめりトされも欄^欄干^干トモ低^低ト先^先ハ
古^古凡^凡ノ制^制ナリト此^此ノ近^近來^來ノ制^制ハ皆^皆鐵^鐵中^中
欄^欄干^干あり高^高丁^丁三^三四^四尺^尺許^許ハ造^造り花^花紋^紋ヲ

かりとて縁^縁ハ細^細ト金^金ノ嵌^嵌ありあり
此^此河^河ノ流^流あり多^多ク年^年中^中ハ氷^氷と
河^河あり極^極ありと清^清潔^潔ト紅^紅ノ漆^漆色^色他^他ハ
ノ之^之ハ水^水トあり拔^拔智^智ハ美^美リキト此^此
又^又ゼンスコイソールトハ尼^尼寺^寺あり大^大門^門ノ
上^上ハ大^大自^自鳴^鳴鐘^鐘ヲ置^置く遠^遠ク教^教トあり
外^外トあり見^見ゆり看^看守^守ノ者^者ハ銅^銅錢^錢五^五文^文ヲ
賜^賜ハ門^門ノ上^上ハ登^登りトス^スト許^許ト其^其

量時規の徑くわいじ二托餘くわいじなりされもべし
ボルグのものふくまれ、稍小なり也
堂の中央ふ大きりの銀の寶蓋たからかさを掛かる
セラガラセラガラの重かさ堂の側わきふ大鏡たいきやう一門いっもん何なんう
千二百六十メ又
長なが二間半餘鏡腹の内ふ入いれ仰あやむふ即すなはちと
午うまを伸のびめ指ゆびささかー支つりりりり
上かみ小屋こやを造つくりしけと雨露うろを坊ぼうく人ひと
の圖説ずふ大鏡長なが三丈七尺一筈用つ茶ちや二石にせき又大鐘おほかね何なんと
可容た三入さん内掃除うちとつるものなり也

寺中てらちゆう小窟こくふりを真まくしりしが堀ほりと石垣いしきは
しりみ内うちふりりと見みる樹きふかすえり
其大おほ小山こやまのくふと総そう并へい小隠起こいんぎの花はな
致いたりされし神かみの外ほか小年せうねん経きやうりものな
漫滅まんめつしと分明めいめいかとと重かさふ二千五百にせんごひゃくフ
トとフふ一いっ萬まん二千二百五十貫目にせんにひゃくごじゅうごかんめなりセラガラセラガラは云いふ千七百
一年いちねんをを羅らふ火災かさい小羅せうらとて塔た倒たふし鐘かねもあつりしゆ
は鐘かねををかかしりし小國中せうこくちゆうのの子こ磁じ器きの類るいとてしり
の圖説ずふ大鐘おほかね以もつ程ほど不以な撞つ撞つ非ひ三千人さんぜん不能なげとつるいふ

鐘かねの門かどのいりいふ幼院こゝろ 舞子まこを養育やしやういくせむる所
其他病院あまなほ十二処 塾しやく子校こがう 茶局ちやぐう 作院さくゐん 寺てら 敷しき 処ところ
河かり 諸國しよこくの商客しやうかくも多おほく来きり集あり土塊つちかた
あり巨富こぶの者もの多おほく 国王こわう此地このちに在あるの時ときは
本城ほんじやうの外の外に別墅べつじよ二所ふたところ又避暑あひすいの殿てん等ら河かり
とせよふよりペートルボルグペートルボルグまで七百七十餘
里りの間官道くわんどうを開ひらく道の幅あは七八間しちやうはちかん正ただ直ただ小
しとがゆる屈曲くつこくなり。とせよ一里いちり毎ごと小

高さ七尺しちせき計はかりがかり標ひょうを建たてり里敷りしきを池いけと
すやとけは能あたるの家いへ居ゐる二層にそう三層さんそうとあり
とせよいかり 築つきとしたり木
とせよ造つくりしとあり大おほき
不同ふたふちがかり 雁かり子こ都城とふぢがかり所ところの家いへ居ゐる
ありとせよ華くわ森しんがかりありペートルボルグ
ありとせよあり



梅うめよりふせラガラにゆえムスタクワヤシ

ムスコウと稱し本國の中土より
北極出地五十五度三十六分の地あり千
二百年正治元年の以て魯西亞王の都城
を建置し歐羅巴洲第一の大城なり
周圍十餘里人店凡十五萬百工高賈備
りるものなり 交易の大場六
千餘處千七百十八年享保三年ペートルボルグ
の官道が修り其間二十餘處の

驛站をおき驛毎に常小馬二十匹を
備へて行旅に滞りしむ夏
の間は車をかりて冬は橇を引りて
此方の路程二百里餘を三晝夜に通行
せしむるなり

○ペートルボルグ 魯西亞王の新都城あり極
りて羨靡を窮りたる創建なり子ハと云
大河の河が流るる三河の島がなりと

地方二里餘此方の里數人家皆磚をり川と
四五層の砌成と官民の家居との差異は
街道の正中幅十間計の溝を道とす
の河あを引く用水あり——左右の岸
の大石を琢と疊みよりつくり八九尺
四方の石りれ、両中にも溝の岸上を道と
せしめ、泥濘のりけり——二十
間毎石階あり、水を汲みとす

又兩岸のりり三尺計の鉄の欄干を施
し、鍛鑠の花紋の金糸と縁をさるゝの
精巧なり、言語の及ぶ所は、
街の両傍は二十間毎りり三間計の
銅の六角造の破あり、
燈籠をりり、基は石あり、方六尺許、
傍参差の建り、十間毎一基あり、
暮りれば蠟燭を點し、八ツ時すつき

此の舟は又より後、消次舟の如く此の彼
此の消次舟とて通舟絶たる行路の
者提燈を引れば幸なり溝の便よき所
くは橋を以て石橋とて梁柱を用
ひて兩岸より此の心へ中程を以
て吊橋とて子の大河の浮梁を渡り
てうちの川より大なりとの長さ百
二十間其割は五百石計も積むきかゝりぬ

舟を橋より舟を救艘排利舟と艦
とて大鉄锚の二門を以て
かけとて上なる角材を以て其の上
厚板を以て橋の両頭を以て夜
半より此の舟を以て浮梁の左右岸
に舟を以て二艘は以て通舟の如く
入船の如く舟を以て舟を以て舟を
以て舟の大小を以て銅錢二十文を税

とも明六ツ以下ノ夜の九ツ迄ナシト道船
可ト若夜半了ナキ不レ仕事ナシトナリ若シ小舩
ナリト河ト水淺十五錢ナリト王居ハ子ハ
の南岸ナリ建ルナリ廣ク二丁計道法トモ
周圍ウケ小流ツ平地高牆等ヲ設ケルト卒人の
構ウ小車ノナリトナリトナリト但守門シの
者常ク小鳥ウ銃ヲ執ク護衛スルのみ也
本殿ハ磚ノ五層ノ墨ノ河ナリトナリト

此の製造ノ妙實ハ思ハ深クの及ブ所ナリトナリト
河ハ悠ク大鏡ニ百五十門ヲ排リ列ス國王ハ志
誕ル辰ハ六七夜ヲほシ放リ川トナリト王居ハ
並ビト石屋ハ一座ナリトムラニの類大理石トナリト
四層ハ小砌成ト長ク六十間計トナリト
精巧ト極メナリト是ハ當今ハ女帝ハ即位ス
の砌ハ大臣ハ命ト美石ヲ集メトナリト瞻ス
禮寺ヲ建テ望ムナリト母彼ハ大臣ハ私曲ト

かすえ寺を造らして其石を以て
おのまけ邸宅を築きしり半露まき
遠流ふ處をまき其家の藉没せられ
官邸と改りて彼所を造り改りて
女主の別殿と改りて其濕氣
深くしと恒おなりと今空
屋と改りて鑽一たかり四壁を
皆錦繡をりつとくもなれも濕

氣おとくもくく爛落せしとて其後
しとみと積りては総折所の外集
躰をりてのよと落生せし二十五年
あのみかりしうふに後再び命を
別ふ石寺を建てられたりし方穴
餘り精心を以て造工の者數百人を集
工を起しとてしとて十四年がれ
しとて落生かりてはとてなり

又王名の東の方二丁計い花園かぞんのり廣
さ三丁計長七丁計並みは内小樓閣の道は
臺榭をつつ淨美をりのと男女
の人形を造り道の両側ふひまりとて
多く噴みあを造りと景致をたとと
昔の花壇の形を六稜八稜或ハ花のり
又ハ草等の如くふつり其内小種と
花木芳草を植ふり今の形を

定らぬ植り金に間の徑を迂曲轉回
しと香をりりと如く小造り造りと
心をききす小段を半なりと其中小
方七間計の亭のり柱梁柱礎とりり
踏らに種の貝をのりと造りり
其外鳥獸花木の類をことと貝を
りとけりと節りとりと奇
工精妙のり何も生ふせず也り

其地學校病院等救急あり又隨身軍
士の居三並あり一而毎常小人馬四千
餘を備わたり又浮梁の南のりし三
間餘の大岩石をす志周りふ石欄を構え
石上中兵の賢王ペートル馬上の像を安
し馬蹄小大蛇を踏たれ像なり先
ペートルボルグ草創のこゝにペトログゴといふ塊ふ
毒蛇位と人を害し其塊ふしより者再

帰しし事なりペートルはトを字のひ
馬ふあり彼塊ふりあり大蛇畏縮し
動中能りし即馬蹄ふけしと踏殺
其地を以て園圃とす近隣りの神威
を傳稱しと臣伏せしものなりし
多しりしあり像の大き一丈二尺黄
銅を以て鑄成あり當今女帝の造る
を以てししあり処し其臺坐の大石ふ金

字ありくペートルペルライ ペートル第一世 ヌカテリナ

フト呈 ヌカテリナ第二世 千七百八十二年 天明二年 八月六

日 彫 彫子 又王居の向ひ子ハの

河中小靈屋あり子ハ大 大河 中しは

の廣さ一里より先より上りし二里

餘り亭 亭 の廣さ六丁計お横三丁餘

生丁殿の亭 帯 帯 縦六角お造り お造り

の存城あり 今の王居ハ遊暑 遊暑 周圍お高く土墻 土墻

築き四方お門を開く表の方お大門あり

門の上お塔のとお高く造り其上お大

自鳴鐘をかき其大かりり言語お及ひ

かき二十七里隔あふツワルスコユセロより

又ゆる鐘の音ハ二里餘ハ又ゆる中かりり

車の大お此方の水車の輪おあふゆる

とれ門の内より方衡木より上と黄 黄

淡黒色おと本國の號章雙頭の鷲を

画く後門の左右に大鏡五門あり五月
朔日國王ツワルスコエセロふり九月朔
日小還らるるすし日く日の出るころ
大鏡と一高き塔と紅白青横文の旗を
建れ又日の没ころ大鏡を喚と旗を
おろし旗竿の高さ七八丈旗もとらて
大なりものなりとて大門の内左の方
に塔ありへとの像を安と是に等身

の像あり左右の手に大鏡をかり鑰を持
たり何の義なりとて詳めせしに彼邦
の貴人の腰に鑰を懸けしにその鑰の色を以
て級を分りしなりカマリヘルといつるに
國王の世継がきおはる家より鏡を懸けり
は人常に鑰をかりしなり又左の方の
塔にニミライといつる神僧の像を安と面
に金あり衣服の眼を以て鑄り像也

後の方ふべールの廟みやうあり美石あり高
く思おもひあけ石せき碑いの文ぶん金かねを嵌か入いり上うり
礎いしの屋やを造つくりて霞かひ下したの台たいを
石いしを敷しきりて屋やの四方しやうの瑠ろう理り版ばんを嵌か入いり
外そとより拜をりぬれぬ設しやうけ電でん屋やの北きたの方
向むかひを隔へりて太子たいしの殿どのあり碑いし石いしをとりて六
層むらの造つくりぬれぬ是こゝに住すりて女に主しゆの
宮みやを同おなじく住すりぬれぬ浮う梁りやうの向むかひにワ

ミレイラストロワよりふはふの街まち衢ごを六む條じやうふたひ
東あづまの方かたに外そと國くに商人しやうじんの市いち店てんあり浮う梁りやうの北きたに
塗ぬ庫こありは力ちからふ石いしありと造つくりて人ひと頭かぶ或ある
耳みみ鼻はな辛から足あし牛うし馬うま羊ひつぎ猪ぶた大おほ麻あ等らあり六月むねは
に海うみ庫こを併ひきと諸しよ人にん小こ鏡かみ鏡かみは
ルパールパールの造つくりせらまきとこのサさとふは
島しま小こ法ほ場じやうあり先まハソーダソーダ水みづ以上いじやうの罪つみ
を犯とがせしものを罰ばつせり処ところあり卒つひ人にんの獄ごく

金ありと刑を行ふすなり。王城の東の方面
アレキサンドル子ウスコイトと云る尼寺あり。此
寺は諸堂の造りたる作の寺と異なりて
莊嚴あり。その美をば坊村寺の内
方三四間小造りたる庫の如きものなる
四方を軍士四人少く鎗を執り昼夜守
護せしむる事なり。國王の遺骸を斂
りし所外あり。又西のふふ冬の間

草木を養ふ蔭室あり。一棟小造り三川
を曲りて長さ二十五丁餘。道は高き大
木を蔵ひ。事なり。此の事なり。事
し。知。室の下に一面小堀あり
常火を焚き。并降るあり。火候を測
り火を過す。函を閉き。氣を漏
れし。總と都のうら。萬の物事
臨奇なり。事のみ。中言

のおよぶ所のゆるぎなく僅九ヶ月停留
路一歩ならぬ所の入る所も百分の一
あるに比し此の地を占める所の概略也
按る所セラガラヒ云々此の地よりイン
ガリマヌインゲルミランドといふ千七百二年
元禄十^{五年}の初めに此の地を占めしは是る
百五十年前の雪條亞より此の地を侵
奪するといふ今年再び奪ひかへ

たりぬ所ある都城を建置とてその地を
かゝる所よりかへりペートル創建の地なり
ペートルボグと名つて北極出地六十度
の地ありヒシランドの海灣の地なり
りとは此の地ハラトガ湖ヲ子ガ湖西湖の間
の道窄隘ありて大船の運送せら
難き所なりと糧食も常不足と
交易の便ありぬありしはペートルの

命ありしと千七百十八年享保三年水戸を起

一 西湖の間十六七里此方の里法のう程を大

船の通切と申さるる御金開くしむ

允二十四年を經て第二世の女王ア

ニ十の御ふ玉りと成就と開河の

丁夫日一萬四千を月おらた是を

諸物の運送の御おらた一圍殿

小民富と近隣との餘澤を蒙ら

たはの御一萬世々の事業のたは

徳澤の御おらた御おらた者なり

元來は此の子の河を御多た三月

の御おらた本城の御おらた五子スライ

又りせし島より本城の外廓を六角

造りし即ち本城より第一の島をアド

ミラリツ島よりアドミラリツの官廳を

の御おらた政事を議する廳をほたす

設け——故ふる名はく——廳の外構
と五角ふ造ふ是都城の固ふ船藏又ふ
所小避暑の殿か——川本又ふ云第三
ワシレイラストロワ王城ふ街衢街や十二ふ分川
浮梁橋をり川と二島を道とされ
エカテリナペトロウナの造るま——所
アキサンドル子ウスコイ子ふ寺の
ペートルの遺骨骨を驚驚む女主人リサをト

銀棺棺をつら——
——寺の形は雙頭の鷲鷲ふ
より中堂は鷲の形なり二川
塔の西の門門なり左右の堂は翼翼なり
故小他の寺は造作のりふ大寺ふ
異なりは地方二里許此方の人お八
千餘ふ

○ツワルスコエセロ 國王の別墅別墅なり——ペートル

ボルグより二十二里直道ありて廣さ八間礎
平りかりり砥のこゆる一五月朔日か
九月朔日ありて國王は及ぶ遷りす
りよ其間百官皆所堪ふ事ありたり
國事大小さざりて堪ふと判断さ
りて本城より一里堪ふと適のたを
二十間ある石の燈籠をてり高さ五
間計ムラこり石ありて種々の色をり

合とて造まり蓋火函の形ありのみ
一方の石燈籠ふかりて半り
柱の圓よりありて基の角石あり三
段ふ組あけ上の版は赤石中は白下は黒
石あり周りに石棟干を施し皆種々の
美石をりりて造り又一里毎小石
礎をりりて里敷を記し其基は赤白黒
の石をりりて是れ三層の礎なり

さうし四尺五寸碑の高より大抵相同し
造工精めを極めしり川もなみ鏡也
別墅の入口、缺門あり、扉、金あり縁を
すりすり、門扉の廣さ三間計、門上小石
の額をとりけ、金字を以て、エカテリナフ
ロイと書し、後園の門、石門あり、
扉の色、この石をすりすりし、組物あり
先ハキニマーヂ、ポチンキント、入者の造り

すわろ、坊、石柱のりしり
年、居を記、
お方ニキント、姓名を刻
たき、この門の、左右の、壁、跨、標、と、柱、あり
大石ふと、造り、其間、この石あり、格、子
小組、この九尺、場、渡、の、柱、を、この、跨、標
この柱、毎、段、あり、ふ、つ、た、この、石、あり、
堅固、が、り、か、す、え、り、この、燈、籠、堆、碑、石、門
の、造、工、費用、夥、し、き、事、が、り、
落成

の後女王始と此塊ふきり費用の高
を閑とくもの多き以笑とれりなり
門より本殿の間の間一里計宮殿五層
なり此のいとく光大夫初と女王小拜
謁路一なり此殿の第三層の庭を
廣さ二十間計長さ三十間餘日と早晨
女王いし寝衣をせられし内小鮮新
花草を植かむと目きゆぬ見え

りよ半なりこれブレといふ人の狭めて
諸国の珍花異卉を何つちかむひまきと断
と植啓おなり合抱もくりの大木をこ
許多植りて庭の下に二砂造の家小
とそ屋脊の上ひ平小く庭を
路一なり誠小人巧とありれと目
を敷と路一半なりとそ相後園小
ハ假山地あり天を奪ふ計ふ造り成

池中みの中の小多々水神みづがみを列つら祀まつあり車を造
於池ちのう中ちゅう小島しやうを築たかと樓閣りゆうかくをくく池邊
小せう鵝が鶴つる孔雀くわんぐうは彼あ離り寺でらをくく程ほど
の池うみ會あひま異い鳥とりをくく夏なつの間ま皇孫みみをく
は池うみより夜よと競まわ渡わたの神かみを俣ひをく園
の入口いりぐちより池うみをくく百二十間ひゃくにじゅう計けいの石
乃なりのなる小ムラをくく造つくく石
人を達たつ川がわ皇みのこをくく八尺はつしやく計けい人形にんがた

男女おとこめ躰たいあやまるとまま連つらくく
有あ或あるの躰たい躰たいせー伏ふし等どうあり何なにせり
池うみ外とほより何なにもく化くわくれ精せい工こうは
くく人ひとをくく甚しつえんくく小せう厨ちゆう
くく且かつ何なにもくくくさみさみのつらき
まのつらくく又また池うみ外とほをくく園えんあり
周しゅうに三里さんり餘あまるまき土つち牆がきを築たかくか
之これの内うち小せう程ほどの穀こく畜ちゆうを卷まくく象しやう

とらほふ春ひあぐすは園當今
エカテリナの開かきーかきーとせ

梅ふせラガラヒあ云サルスコイセロ又

サルスクーセロ此地近こ海新小開

きたた國王の別墅也千七百五十四年宝曆四年

小大小あ噴水を造り添とれ

景揚とせけ遊覧ふ備ふサルスコイ

思ふセロサルス各セロ併ふ一語の轉なり

○夷俗

梅ふ魯西亜ふ服屬とる処の夷俗

おふ五十一種との内光太夫等親

見聞とるもの僅小數種ふことと

とも其人物の殊異なり風俗の不倫

かり種々の倣泥やる毒ふ毎く愕

くー今やま西書の中小考

西河のよの愚管絃後ふ附一の

他は只名同のみで純くは後
考ふ備ふ

○ロシイスコイヲスポダ 即ち本國の人を云

○ポルマキ

○左ホンスコイ 其地洋りくもムスクワ

ペトルボルグ カメンノラストロワ等の奴婢ハ
多く此人をして其の男子ハセリトウカ 服の若
の短きと着女子ハ本國の服ハ異なり

が 白き布ハ白き深紋を織りて
りりと 深き果む

○ボウカラ

○リトウチ

○子ミツニシ

○チタラ

○トピツシ

○ゲレーカ

即ち厄カ西亞の人を黒奴也

鼻仰き唇反りと色甚紅一當今女
主即位の明年ペートルボルグ(交易の事)
み一もの本國人と博奕の後小争論ふ
おひゲレカ十二人おと本國の人四人を殺害
路とこれふとらとポスラニカ(外國より兵船
官制の部ふ即けふもの者らを捕と死
洋ナリ)刑ふ行人と路一を女主より助命とす
皆と命路られあれも人命係と

を科られ、烟を送りと罰せんとし、
何ガリ、ちふた、者た助命とす、
命せられ、り、五、百、杖、築、う、り、と、十、六、
の、者、を、ゆ、り、路、一、は、ク、イ、ゴ、ロ、ド、の、宅、地、
を、り、り、日、の、り、り、人、五、百、銅、錢、十、五、文、を、
書、一、ら、の、後、お、の、書、を、む、く、石、の、煙、
管、を、造、り、と、學、せ、を、り、書、の、路、を、
畏、じ、帳、ふ、舖、を、一、と、三、ビ、リ、の、婦、人、を、賣、

興ふ今うの男女こも小魯西亞の彼を着く

○アルマ子 按ふ即 亜爾默泥亜がりの

地は亜細亞洲の最西小河都尔格の

属國なり

○五ホニ

○エステリマシテヤ

○リタシヤ

○ロバリ

○ペルマキ 按ふ白尔米雅がりの地は

シビリの東小河ムスクワの北二百三十

餘里は方の海を煮て塩を

製せしを以て生活するもの二万

餘人

○チリマン

○モロワ

○ツワヤ ニチノゴロドの邊ふなり

○ 左レミナ 歐羅巴^{エウロパ}シビリの^{||}塊^{||}小^{||}丸^{||}頭^{||}
 の^{||}髪^{||}あ^{||}り^{||}本^{||}國^{||}の^{||}人^{||}の^{||}如^{||}く^{||}一^{||}服^{||}ハ^{||}セ^{||}リ
 トウカ^{||}少^{||}似^{||}く^{||}短^{||}く^{||}腰^{||}ハ^{||}摺^{||}多^{||}く^{||}一^{||}咳^{||}囉^{||}
 呢^{||}と^{||}着^{||}セ^{||}ル^{||}多^{||}く^{||}兜^{||}羅^{||}綿^{||}の^{||}類^{||}を^{||}も^{||}ち^{||}す
 毛^{||}織^{||}の^{||}帯^{||}を^{||}一^{||}り^{||}護^{||}領^{||}を^{||}け^{||}履^{||}の^{||}底^{||}
 一^{||}り^{||}婦^{||}人^{||}短^{||}き^{||}袴^{||}を^{||}着^{||}く^{||}賤^{||}き^{||}
 一^{||}の^{||}衣^{||}と^{||}裳^{||}と^{||}を^{||}合^{||}へ^{||}一^{||}ハ^{||}一^{||}ハ^{||}縫^{||}合^{||}せ^{||}
 一^{||}と^{||}名^{||}り^{||}皆^{||}利^{||}諾^{||}布^{||} 亞麻布 印^{||}花^{||}布^{||} 虫

類^{||}を^{||}も^{||}ち^{||}す^{||}悦^{||}を^{||}以^{||}て^{||}頭^{||}を^{||}裹^{||}し

○ 乃^{||}名^{||}キ^{||}ニ^{||}テ^{||}ゴ^{||}ゴ^{||}ト^{||}ム^{||}ス^{||}ク^{||}ワ^{||}の^{||}間^{||}ハ^{||}本^{||}
 國^{||}の^{||}人^{||}と^{||}雜^{||}り^{||}あ^{||}り^{||}男^{||}子^{||}の^{||}股^{||}ハ^{||}セ^{||}リ^{||}トウ^{||}カ^{||}ハ
 似^{||}く^{||}短^{||}く^{||}紅^{||}咳^{||}囉^{||}呢^{||}と^{||}胸^{||}と^{||}背^{||}ハ^{||}多^{||}く^{||}
 横^{||}條^{||}と^{||}縫^{||}合^{||}せ^{||}り^{||}飾^{||}と^{||}一^{||}と^{||}婦^{||}人^{||}ハ^{||}本^{||}國^{||}
 の^{||}指^{||}ハ^{||}あ^{||}り^{||}一^{||}と^{||}別^{||}ハ^{||}裳^{||}を^{||}着^{||}く^{||}衣^{||}ハ^{||}は
 多^{||}く^{||}カ^{||}ザ^{||}リ^{||}ボ^{||}タ^{||}を^{||}施^{||}一^{||}と^{||}白^{||}布^{||}を^{||}以^{||}て^{||}
 頭^{||}を^{||}裹^{||}ス^{||}ル^{||}上^{||}ハ^{||}木^{||}を^{||}縮^{||}と^{||}一^{||}と^{||}輪^{||}を

造り鈴又、珠玉の類をかけ飾ると
其状もろくもとりてあがりたる

○タクリチイ

○タニラ 即鞆靴なり頭髪を剃頂

一寸五分計ふすり剃髪三川組

と後ふ垂ま髪より汁毛を剃

小き笠を戴し衣服の類の皮或は噯噯呢

あり長き僅小腰ふ至り女子の服は綿

布と目お長き身ふいし唐紙床を

しりつら噯噯呢の類を鋪く戸外あり

殿を暖くゆふ入るトボルスキ近傍より此

不御ふ小散居とも其酋長はカザニあり

官ハポルコウニカかり衣服屋室より魯

西垂の制をとりタニラの祖祝は皆此酋長

の方ふよりゆばりく本國へ送る今の

酋長の書ハ本國の人かり常食ハ多く

温既^ニたり^テ制^スは方^ト同極^ニあり^テ牛乳^ノ小
蘇^ノ食^ハ賤^ノ人^ノの家^ニ地^ノ煙^ノり^テ屋^ノ室^ノ部^ニ
電^ハは方^ノの操^ヲ操^ル似^テり^テ但^シ烟^ノ燄^ノ也^{ナリ}
本國^ノのこ^トく^ニ造^ルる^ニなり

按^リ小^ノ韃^ノ鞑^ノり^テ亞^ノ細^ノ亞^ノの北^ニ陸^ノ西^ノの
方^ニ在^ル歐^ノ羅^ノ巴^ノの境^ニ抵^ルバ^シく^テの終^ニ
稱^ガり^テ近^ニ海^ニ三^ノ分^ノ一^ノと^シて^シ一分^ノを^魯
西亞^ノ韃^ノ鞑^ノと^シて^シ即^チち^テ本國^ノあり^テシ^ビリ

- 稱^ル者^ノ一^ノ分^ノを^支那^ノ韃^ノ鞑^ノ
- 黒^ノ龍^ノ江^ノの北^ニシ^ビリ^ノの境^ニ抵^ルる^ニ長^ノ城^ノあり
- 沿^テ日^ノ星^ノ宿^ノ海^ノの邊^ニあり^テを^云也
- 一^ノ分^ノの特^ニ立^テ韃^ノ鞑^ノり^テ南^ニ百^ノ里^ノ衣^ノ亞^ノ莫^ノ臥^ノ
- 兎^ノと^テ壤^ノを^接し^テ東^ニ支^ノ那^ノ韃^ノ鞑^ノに^抵る^ニ
- 西北^ニ歐^ノ羅^ノ巴^ノ境^ニあり^テを^云也
- 夕^ノ夕^ノの特^ニ立^テ韃^ノ鞑^ノの程^ノ類^ノあり^テ
- ナガイツ

○クミキ

○トルコメンツ 按ふトルコメンツの即ち亞爾

黙泥亜(り)

○バッキリツ

○キルギツ

○ブフリツイ

○バラビシツ 按ふゼラガラに云はるバラビシ

イルテス河の兩岸ふみ、打魚狩獵を

○^キキ^シ 畜産を養ひて生産を

○テレウチ

○カチンツ

○ベウチリ

○マクチ 又マコト 添歴地名の部 亦詳也

○ツルカシ 按ふツルカシ一ツルカシ一ゼラ

カラエ云は北高海と黒海の間あり
幅負百二十餘里 此方の一分は本國に属す

○ 一分の契利年都尔格の地カ 小属と土人の田獵

○ 耕農を業とし又畜産を以て其の地

○ の婦人極めると其の地を常小

○ 形様の衣袴を製し靴の飾は

○ 小し良馬と畜産を最健駿なり價

○ 小りや甚貴なり

○ アバヒジ

○ シセチンヤ

○ キスチ

○ モンコウチ

○ カウコキ 按ふ小葛カル莫奇なりコウ

○ ランテントルコ書ゆ云地ハ勿カル瓦河北高海

○ の沿岸小なり地氣甚寒く終年

○ 冬のころや畜産を以て生産

○ こと馬肉を嗜人とく生めとこれを

食ふと云

ブラチ又ブラツケ ヲホツカより
コツカの邊ナと散居シと色黒ク顔色甚シ
おれりト男女皆ツ辯ズ遊ブ女子兵
他タ髪カミをシ續ツ辮ヅとシりシも長シくシ紐ヅと
垂ツぶシがリ絶ツと湯ユ浴ヨク浴ヨクさリのシ塗シ垢カウ臭ニ
織オリ小コと近チカけシ金カネのシ穴アナ物モノ羊ヒツの
皮ウシとシ衣イとシのシ屋ヤハ角ツノ小コ造ツクと甚シ低シ
くシ極シめシとシ程シ

梅ウメふシゼラガラヒシムシッラシテンシ兵シアシガラ
河カハ濱シふシ木キ枝エをシ編オリと屋ヤをシ造ツクるシ其
かシらシ六シ角ツノ或シハ八シ角ツノりシりシ多シくシ牛ウシ馬ウマ
をシ出シしシ且シ常ツヨクめシ居イをシ移ウツと一シ雨アメ
止シりシ一シ二シ月ツキもシとシムシムシブラチシブラ
ツケシブラシテンシ皆ツ一シ語コトのシ形カタとシりシ

○サモマダ 梅ウメふシ即シサモイシテンシガシリ
ゼラガラヒシムシムシムシ地チ氷ヒ海カイ沿シ岸シのシ

北極規内ききょう係けいりと極きくりと互寒ごくわん
の地ちがり五ご三さんイイナナ西河の洞くわがのどう
けり人物にんぶつらりり殊あや異いかり其そのけ
極きくりと矮こい小せうしと醜ちゆう陋ろうかり半はん云
可べうもと面色あひそく焦しゆうまま莖かき子こ目め細こくく頰かハ
膨脹かうちゆうしと氣きをを舍あけけらら如ごとくく夏かハ
魚皮うしひをを衣ぎしし冬ふゆハハ獸皮じゆうひをを着きる
一枚まいまいののすすままめめととややららりり身みとと

すすまま婦人ふにん小国せうこく極きくりり土穴つちあなの内うちハ
すすハハ剛かう义ぎををのの内うちとと膻肭あつしせい筋ぢんをを係けい
枯魚かぎょ獸肉じゆうにくをを常食じゆうじきととすすハハ小国せうこく
ととすすハハ是等ぜいとうのの程ほど頻ひんかりり也なり

○コイバリ

○カラギチ

○サヨヒ

○トングモ

トングシ河の両邊りやうへんふふみみるる人物にんぶつ

色黒く眼細く風俗ハマコトとあれ
極うと男陋かり汗衿を日わと真
皮の衣を穿川又屋を造下ヤ鞆皮を
以て幄の如きものを造て駝を負せて
彼等の遷移トテ小便ありマコトブラツケ
トングモトテ文字教法ガリト云
扱ふセラガラヒムトングモト鼻ひく
目細く小児の内小面青黒の線を

以て致様を繡めと小児しりて痛
楚ふたつと帝位とるトテ古の
身小繡たれも今ハ面とテ小縫
ガリとの仕と云工拙ありと云れ
る今ハ漸く本國の化ハうつり
さまの事ハヤみたりや光大夫等
ハ面皮ヲ繡トテ人ハ見たりと
又云帝小狗肉をテニテイル
ラ

シガリ部シガリ部の皮を衣きする者多し
字架教キヤウカウを奉崇ほうそうしキヤウカウと佛教ブツキョウの事
ある大抵一夫兩婦いちふうりゆうふ或ハ三四人を娶よめる
之の例れいは

○ユカギリ 氷海沿岸山あり

○五クト 又五クチと云ふチギリヲホツカ

の洞ほらなる即ちアクラニスコイりの風俗

カムシマタリ カムシマツカの人をいふたれ男子

洞ほら中を戴おほく穴居あなぐみと云いふ地ち煙えんあり 屋室の部小洋
窓まどハ魚皮うしひ小とくふす 瑠理版るりばん用
此こゝの例れいはイヂガの郡官ぐんくわんの所轄しよきやく也
○コリマキ 又コイキ 按おしるセラカラヒ
云コイキハベシシンスコイの灣上わんじやうあり
其地極きくちのく廣ひろし土人常とじんじやうあり
居処いしょと遷移せんいし定住ぢやうぢゆうの処ところなり其
俗しよくありしは猛勇まうゆうなり暴戾ばうり也

人死といふもの屍を焚く多し
チイル^上を産と年毎其皮一萬
二千張と税ふ也と

○カムシマタリ 沙屋地元の部小洋より

○クルリサ 梅子小ゼラガラヒ云クルリス

諸嶋のカムシマツカの南岸より西南の
方小連綿と名の著しきもの二十
五嶋もの蹟と云ふものハ救と云ふに

カムシマツカ小附近の島ハ皆曾西亞
に従くも遠くより来りて鳥の

酋長ありと理ゆあり且

日本この交易を専らめと云ふ
トれハ方めと蝦夷の千島と稱

○アレウチカ

○アレウチカ 梅子即ちアレウチスキ
の人を云ふハ 漂人等始りて漂着

セーアミシマツカレモ諸島中の一嶋
ガリナシムル上小洋也

○魯西亞通商五十二國名目

梅子小魚西亞小通商もこの五十二
國但帝号を稱する諸島の通商せんと
し其國を築く今この國名明人
の圖説等小載は此の者即ちの下小
漢字を併し其も譯及せざる如の

このハ姑く記し候考を候

亞細亞洲

○マホンスコイ 大日本

皇朝いすは彼邦と通商せずとも其
國名を築おすの上小云處のこと

○キタイスコイ 支那 即大清國

○ペルシスコイ 百兒彥に亞國

○タリコイ モギリスコイ 大莫即畏國

以上四國の皇帝統御の國なり

○メカ 墨加 亞刺比亞國の地なり

○ハルタハスコイ

○身サボル 非沙布爾

○ゴルコンダスコイ 即ルエ太

○カレクタスコイ 加里古王 并小應帝亞國安義 江西南の地なり

○カヒムインヂスコイ

○シアムスコイ 暹羅

○カムボマスコイ 東蒲塞

○マワ ぺグスコイ 梅ふマワ 哇叭なり

○ぺグスコイ 琴牛 合治なり

○アセーハセーハセーハ 信ガリ

○アラキンスコイ 亞臘罕

○アカムスコイ 亞罕 并小應帝亞國安義 江外の地なり

○トシキンスコイ 東京

○コキヒナスコイ 各正

○ 瓦リコイ テベテスコイ 得白澤

○ マロクスコイ 案りふ マロク兵馬路古り

○ 赤道線下小散在り海島かり下

○ 海鳩の部小入魚イサ 水ミヅ載のりたりハ語コト

○ ざん

○ ゲルジマスコイ

○ 以上十六國の王族又ハ酋長と云々チ理リふ

○ 地チりリ

○ マルチペスコイ 馬兒地マニチ襪島一名萬島應

○ 帝亞海中 赤道線下小河

○ カンチマスコイ 甘的亞 地中海中チ河カ

○ アセムスコイ 梅ウメりリふアセムハ安義江内の

○ 地チりリ今大莫即兒モクハ屬ゾクり海鳩の中

○ 載のりたりハ語コト

○ マテランスコイ 哇吶の地チりリ

○ ボル子ヲスコイ 勃泥

○マカサルスコイ

食カ百松の地ナリ

○テルナイスコイ

得ル那的并小應帝亞海中小ナリ

以上七國皆海島小係各酋長之
処あし治し又大國小屬治所治ナリ

歐羅巴洲

○ロシイスコイ

魯西亞國

○セルマニスコイ

一名リムスコイ

熱ル馬泥亞

○國

○ヲトマニスコイ 一名トレツコイ

都見格國

以上三國皇帝統御の國ナリ

○ポルツガリスコイ

波ハ爾ル社ト瓦ガ爾ル

○ギシパニスコイ

伊イ斯ス把バ泥ニ亞ヤ

○フランツィスコイ

拂フ郎ラ察ス

○イタリマスコイ

意イ大タ里リ亞ヤ

○アングリマスコイ

濠ホ厄エ利リ亞ヤ

○一名スリコブリトンスコイ

大オ貌モ利リ太タ泥ニ亞ヤ

○ ダニマスコイ 太泥亜 即第那瑪尔加

○ ス彦チスコイ 雪際亜

○ ポルニマスコイ 波羅泥亜

○ マンギリマスコイ 翁加里亜

○ プルシマスコイ 孛漏仙

○ 以上十國王族所理の國ガ

○ ガラシチスコイ 和蘭地

○ ス彦知リスコイ 蕨亦登亜

○ 彦シクリスコイ

○ ゲヌマスコイ 熱架亜 意太里亜の地ガ

○ ルカスコイ 熱尔馬泥亜の地ガ

○ 以上五國首長を云く 理ガ地ガ

○ 亞弗利加洲

○ アルジルスコイ 亞尔機尔

○ ツニスコイ 堵泥素

○ テリポリタニスコイ 得利非

○ 以上三國酋長所理の國なり今

○ 多く都尔格小隸也

○ 亞墨利加洲

○ ア。パ。ラ。ハ。ス。コ。イ

○ コサスコイ

○ カハギニスコイ

○ スイッキパルタンスコイ

○ 以上四國

通計 五十



此書三卷...

...

...

...

...

...

...

...



